

みたけ夢だより



2月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

自己実現・自己決定

副校長 市川 琢也

日本が誇るメジャーリーガーの大谷選手が目標シートを作成し自己実現をさせた人物であることはよくご存じだと思います。

自己実現は、アメリカの心理学者であるアブラハム・マズロー氏の欲求階層によって提唱された言葉です。人間には、①生理的欲求(食事や睡眠・健康など)②安全への欲求、③社会的欲求(所属と愛情)、④自尊(尊厳と地位)欲求、⑤自己実現欲求があり、下位欲求を順番に満たしていくことが重要とされています。自己実現は、自分の目的・理想の実現に向けて努力し、成し遂げることです。

平成22年に作成されました、「生徒指導提要」が令和4年12月に改訂されました。

生徒指導提要は、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書です。

時代の変化に即して網羅的にまとめられた今回の生徒指導提要には、次のように書かれています。

【自己決定の場の提供】

児童生徒が自己指導能力を獲得するには、授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が何より重要です。児童生徒の自己決定の場を広げていくために、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことが求められます。

これだけで自己決定力が養われるわけではありません。そのような力には、社会情動的コンピテンシー(非認知能力)が関連しているとされ、横浜市では大学や企業と連携し、調査・分析を進めています。

自己決定力を育むためには、教員の授業づくりはもちろんのこと、ご家庭と学校が共に非認知能力を高めていくことが必要です。私は次のようなことができる子どもになってほしいと願っています。

- 自分自身の強みや弱みを理解し受け入れる考えをもつこと、また他者を認めること
- 友達や家族、教師と共に相談し考えを出し合い問題解決を図ること
- 挑戦し続ける、学び続けること
- 小さな目標からコツコツと行い、成功体験を積み重ねていくこと

子どもたちが、自己決定したことを温かく見守り、時には共に考えサポートしていくことで自己実現につながるのではないかと考えます。保護者・地域の皆様も引き続き本校の児童を温かく見守っていただけたらと思います。

話は変わりますが、大谷選手から小学校に贈られた大谷グローブが本日1月31日に本校にも届きました。これも大谷選手が考えていた「自己実現」かもしれません。